

ITS技術を活用した実証実験などへの取組について

1 安全運転支援システム（DSSS）の路側機を活用した実証実験への参画

愛知県は、平成 27 年度に整備した安全運転支援システムの路側機が活用された、以下の実証実験に参画した。

（1）（一社）UTMS 協会※の実証実験（DSSS の有効性に係る効果検証）

時期：平成 28 年 4 月から現在

実施：トヨタ自動車（株）等

内容：リファレンスカメラを路側機に設置し、システム対応車（ITS Connect）と非対応車のそれぞれについて、交差点を右折する状況を記録。交錯領域において、右折車が通過してから対向直進車が侵入するまでの時間的余裕やドライバーの運転挙動（急ハンドルや急ブレーキなど）について調査。



右折時衝突防止のイメージ

結果：衝突のおそれがある右折が約 4 割削減（愛知・東京の実験対象交差点における現時点の暫定値）

※情報通信技術を活用した交通管理システムの調査研究などを行っている団体

（2）SIP（総務省）の実証実験（自動走行システムに必要な通信技術の研究・開発）

時期：平成 28 年 8 月から平成 29 年 2 月まで

実施：（株）デンソー等

本実証実験は、SIP(戦略的イノベーション創造プログラム)・自動走行システムに関わる研究開発の一部である総務省の「ICTを活用した次世代ITSの確立」による委託を(株)デンソー等が受けて実施。

内容：路側機監視エリアを走行する車両が、赤信号で交差点に進入する緊急車両（救急車）を回避する動作（位置、車速、減速地点など）について、路側機からデータ収集。



データ収集エリアの状況

データを活用し、自動走行車両と緊急車両とが通信することで、自動走行車両が緊急車両を安全に回避できるかどうかについて、シミュレーションで検証。

結果：交差点の規模（車線数）や通信の有無を変化させて検証した結果、緊急車両が他車両の存在で自動走行車両の視認外になっても、自動走行車が通信技術により確実かつ余裕に回避することが期待できる。

【参考】県整備の路側機

場 所：本山交差点（名古屋市千種区）
主 体：愛知県（協力：愛知県警察本部）
運用開始：平成 28 年 3 月





2 交通事故データを活用した交通安全アプリの研究

愛知県 ITS 推進協議会（事務局：振興部交通対策課）では、「安全・安心な愛知づくり」に向けた活動の一環として、平成 27 年度に交通安全をテーマにオープンデータ等を活用した ITS の活用方策を会員に募集した。

平成 28 年度は、交通事故データ等を活用した以下の提案について、交通安全への有効性や実現可能性を検討の上、研究費を助成し、現在データ分析を始めとした研究を実施している。

アプリケーションが交通安全対策の一つとして交通事故削減につながるよう、実用化に向け、研究を進めている。

提案の概要

提案者	概要	イメージ
名古屋大学 山本 俊行 教授	<p>【テーマ】 運転者属性に応じた交通安全情報の提供</p> <p>【内容】 交通事故データと交通センサスデータを活用し、運転者属性、車両属性及び交通事故多発地点の関係を分析。分析により抽出した交通事故危険地点を用いて、運転者や車両の属性に応じて交通安全を注意喚起するアプリケーションを研究。</p>	 <p>例：ゾーン 30 を注意喚起</p>
名古屋工業大学 伊藤 孝行 教授	<p>【テーマ】 交通事故データ分析に基づくドライバーへの注意喚起アプリの開発</p> <p>【内容】 交通事故データを活用し、地点毎の交通事故の特徴を分析。分析結果を用いて、運転時の状況（気象条件、時間帯等）に基づいた交通事故地点接近の注意喚起を行うアプリケーションを研究。</p>	 <p>例：交通事故地点を注意喚起</p>